



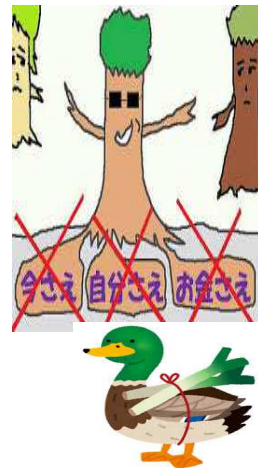
会社は誰のもの？

十数年前、定年退職を数年後に見据えた段階で、カンナプロジェクト成るものを立ち上げ、数人のメンバーと共に、月例の会合(時には1泊の会合)を持った。新規事業を行うに当って会社を設立するのだが、果たして会社は何のために興し、どういう目的を持った事業を行うのか？会社は誰のものかについて共通認識を持ちたく、問いかけた。

現職時代、余暇を利用してとは云うものの、定年退職後にまだ、何かしらの仕事をしよう(新規事業を興そう)とやっていたのですから、仕事が趣味だという事がお分かり頂けるでしょう。

時代の背景には、少子高齢化と共に、長寿社会というベースがある。ヒト・モノ・カネが企業の三要素といわれ続けて久しいが、直近では、今だけ・金だけ・自分だけの社会に変貌し、一昔前のヒトが、人材から人財に格上げされたのもつかの間、近年は人件費という費用に格下げされてしまった。ならば、高い日本人正規社員を増やすより低賃金でも来てくれる外国人労働者の方がいいという事で、ことばの通じない単純労働者を「移民じゃない」と云う詭弁を弄してまで、年末の駆け込み法案を決議し、細目を議論することなく、省庁に丸投げして大量移民が画策されている。時限立法なら、時間切れでお帰り頂けるのに、お帰り頂けない法律だ。

世界の動向・潮流に逆行する『日本崩壊推進法』である事を心に深く刻んで、対処して行こう。何処かの新聞の川柳に、『トランプのポチかと思った、カモだった』と云うのがあったと聞いた。このカモは、ネギ満載で世界を飛び回っている。反日看板を担いで、敵国を回っている元首相という勝負かも知れない。



企業の三要素が何であれ、国政を担うにしろ、『何のために…』という起業や国政の大前提が欠如し、初心がぐらつくようなものであってはこういう体たらくを招く。

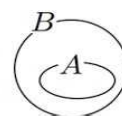
誰でもが、まずは自分のため。次に自分を取り巻く人(自分を支えてくれている人)のため。更には、志を同じくする人や援けるべき人を援けるため。と昇華して行き、やがては、社会や国・世界のためとなるのだろうが、おおよそ、自分のため、金稼ぎのための範疇で、その先がない。典型的な例が、今回のゴーン事件でもある。

独特の発想からの発言で、多くの人の目からうろこを落とし続ける日下公人先生の動画をご覧頂き、『あるべき姿』の根本を探ってみよう。

<https://www.youtube.com/watch?v=HJ3dVbH6dB4> 日下公人 ひとりがたり

企業の三要素は、起業する上に於いて必要/十分条件であるが、その素地となる状況・環境はどうだろうか？実は、三要素以上に重要であり、且つ問題なのが、状況・環境だということはあまり云われていない。国際/国内情勢・市況・市場/消費者動向・時代のニーズ・職場環境・雇用環境など、実に不安定で、変化しやすいこれらの状況・環境の中にあって、揺るぎ無い思いや、信念・志が企業の素地になっているかどうか？ひいて言えば、ビジョンを持った事業か？が今、問われていることではないかと思う。

$A \longrightarrow B$
十分条件 必要条件



日本型資本主義が瓦解し続け、今は株主資本主義へと変化している。会社は経営者と社員とが各々の役割分担を共同でこなし、生活の糧を築いて来たものを、資本を投資しただけでその企業の業務に関与しないで、議決権だけを持った株主に好き勝手に牛耳られている。正に、会社そのものが株式という商品に成り下がっているともいえる。外資系企業に居た時、買収や合併が頻繁にされ、知らない企業が系列に入ったり、その企業が売られたりしていた。



本来、株主を儲けさせるために始業した企業など日本にはなかったはずだ。それでは、一体会社は誰のものか？株主のもの、経営者のもの、社員のもの…。全てYes！だが、私はNo！次世代に託せるものでなければならぬと思っている。

刹那的なヒト・モノ・カネは、状況/環境の変化によって浮沈が激しい。あぶく銭や、棚ボタ収益は浪費されてたちまち失うし、風向きが変れば優秀なヒトから辞めて行ってしまう。重厚長大な設備も、使い勝手が悪くなって来れば、大きなお荷物になってしまう。予定は未定で、カンナプロジェクトは、当初の計画通りに事が進まなかったのは致し方がないもの(現実)としても、具現化した形は現在のピュアタイの实在に他なりません。そのピュアタイを一旦閉鎖してまでやらなければならない事。この10年間で蓄積したKnow/How・知見・人脈・土地勘を活かして、次世代に託す事業の構築こそが今後10年のテーマであり、使命だと考えた次第です。



七人の侍 募集

黒澤明監督の代表作であった『七人の侍』1954年(昭和29年)公開は、ご覧になっただろうか？YouTubeを検索してみたが、<https://www.youtube.com/watch?v=MsR3T1lWh9g&t=> プレビューしかなかった。映画も観たいが、問題は映画の中身。命を懸けてでも仕事を遣り通そうとする侍の生き様と、死に様。そういう七人の侍を募集したい。

と云っても、そう易々と人は集まっても乗っても来ない。これを何年掛けてやろうとしているのかと云えば、答えは10年！(何と、まあ気の長い話か？ではありません！)結果10年であって、プロセスに於いては、1～3年かも知れないし、3～5年かも知れません。『この人は7人の侍の一人』だと期待しても、期待はずれだったという人が何十人も現れては消え、消えては現れるということの繰り返しを10年やろうと云う事です。

100年スパンで天下国家を語る事の出来ない官僚・政治家達でも、せめて、10カ年ビジョン位語って欲しいものだと思っておりますが、殆ど見当たりませんから、ビジョンを持たない木っ端役人・政治屋家業の全員は、消去・排除されてしかるべき人達だという評価基準です。個人事業主であっても同様で、鷹揚に『国のため』などという看板を掲げる必要など更々ないにしても、事業ビジョンは秘めていて欲しいものだ。一見無名・無力のように見えても、路傍の片隅にひっそりと咲く花の美しさ、強さ(右図は、オジギソウの花)に感動できる感性は必要だ。



路傍に咲く花の美



バイセクシャルの異名をもつ
mamengsa(天南星属)

果たして、路傍に咲く花を見つけ、『七人の侍』に抜擢できるかどうかは、今の処未知数でしかない。かつて、私は横浜生まれの浜っ子で「浜っ子気質は出船入船」と、記述したことをご記憶だろうか？『来る者は拒まず、去る者は追わず』と同じで、「ワレこそは剣の達人なり！」「一生懸命頑張ります！」「営業畑一筋で来ました！」などと、鳴り物入りで来る人も拒みません。年齢・性別・経歴・などにも拘りません。が、犯罪歴や不健康な人、不正行為・暴力・暴言行為は論外！で、即時解約。

今、話題のL・G・B・Tは？宗教は？…公私のけじめがつかなくなった段階でOut！個人情報保護法の観点から、聞いてはいけない事があるようですが、ここはタイ。遠慮なく、聞くべき事は聞き、知るべきことも知らせて頂きます。一番知りたいのはあなたの将来ビジョン(今は影も形もないものを具現化するのがビジョン)です。

30年ほど前、営業人事と教育研修を担当していた時、営業マン募集広告(リクルートの求人誌全面見開き2ページで1000万円)を打ち、60人余りの応募者がありました。採用予定は20人程でしたから、強気な面接ができて、経歴・職歴・特技など聞きましたが、応募者の皆さんに「今、私はあなたを面接していますが、逆に、あなたから私を通して当社を判断されている思いもあります。今回の採用予定は20人程で、60人余りの応募者があります。是非ご自分のセールスポイントと、希望する給与をお知らせください。」と言うと、「私は営業畑一筋でやって来て、それなりの実績も挙げて来ました。月収40～45万円は希望します」と云う人がいたり、「私は、今まで事務系の仕事しかして来なかったのですが、営業と云う仕事にチャレンジしてみようと思って今回応募しました。実績に応じた給与を頂ければ結構です」と云う人も居ました。

どちらを採用したかは、皆様の想像通りです。自分のポテンシャルにチャレンジしようとする人を採用するしかない！というのが正解で、彼はたちまちの内にTopセールスマンになり、ある雪の降る日、営業所の営業マンが革靴・背広姿で出社し、「今日は、雪で車がスリップして事故でも起こしたら大変だから、所内でフォロー営業をしよう」と決め込んでいた時。彼のTopセールスマン君は、長靴・ジャンパー姿で現れ、颯爽と外交セールスに向かったとの事です。



タイの天南星属？



ご存知！カネノナルキ

営業をやるのに営業経験・経歴など大して役に立たない。立て板に水の如く弁舌やかなセールスマンよりも、口下手で内気なセールスマンの方が好成績を上げている例は珍しくない。そのセールスマン自身『何で売れているのか？商品が良いからなのか？』よく分からないが、確かに自分が売っている商品は、買って頂いたお客様や得意先の利益になることは間違いないという自信を持っている。

売れるセールスマンは、顧客に利益を提供することに一生懸命になり、売れないセールスマンは、売ること(買ってもらふこと)に一生懸命になり、説明し捲くる。

顧客が自分にとって利益になると理解されれば、能動的な行動を示し購入を希望して来るし、利益にならないと思うものは拒絶されて当然(自然の成り行き)だともいえる。消費者心理以前に、(先天的な本能)を見直す必要が在りはしないか？

そういう観点から、映画七人の侍は参考になるように思います。自分のポテンシャルに挑戦し、野盗と死に物狂いで戦い、貧しい村人を救う「侍」の応募を期待したい。自薦・他薦でも構いません。是非ご応募・ご紹介ください。

尚、収入に関する条件等に関しては、本誌発刊95号(所得3倍増計画)をご覧ください。

嘘と本当 働き方改革？

嘘は、書いて字の如く虚言を吐く事(虚実を口述する事)。ですが、息を吐くように平気で嘘をつく民族に取り囲まれているせいか？日本の政・官・財界のお偉いさん達も、平気で嘘を付き捲っている。無力・無名な庶民がつく嘘等方便の域を脱しないが、お偉いさんの嘘は犯罪に匹敵する。では、本当であれば、正しいか？必ずしも正しくない。

この辺の見極めが、煩雑に入り乱れているのが現実でもあるから何が嘘で、何が本当か？容易に判断できない。大企業のデータ改ざん・隠蔽など、内部告発でもなければ、一般人は知る由もない。知ったところで、直接利害関係がなければ「へー、そうなんだ…」で終わりで、痛くもかゆくもない。情報過多で、関心の向くところ以外には、興味を持たない殺伐とした風土が敗戦後70年をかけて出来てしまった。

西洋長屋の団地やマンションでは、『隣は何をする人ぞ？』で、顔を合わせた事がないとか、話は勿論、挨拶もしたことがないなどと云うことが、当たり前のような社会になって来ている。

このままで良いのか？更に少子高齢化にかこつけて外国移民が大量に入ってきて、異文化コロニーが全国各地に点在し始めてもいる。共存処か、対立や犯罪・紛争まで引き起こし兼ねない状況を画策している政府は何の責任も取らないことは必至だ。専業主婦まで駆り立てる働き方改革の中身を見ても、無責任極まりないことが透けて見える。



コーヒーの花

働き方改革は、一億総活躍社会実現に向けた最大のチャレンジ。**多様な働き方**を可能とするとともに、**中間層の厚みを増しつつ、格差の固定化を回避し、成長と分配の好循環を実現するため、働く人の立場・視点**で取り組んでいきます。

(官邸広報)

「長時間労働を是正していく。そして、非正規という言葉を一掃していく。子育て、あるいは介護をしながら働くことができるように、**多様な働き方**を可能にする法制度が制定された」(安倍首相 談)

働き方改革は、本当の改革ではない。欺瞞に基づいた嘘八百の政策でしかない。国民を騙し、専業主婦までも『女性が輝やく社会づくり』などと云う美辞麗句・甘言を繰り出すに至っては、詐欺商法そのものだ。

専業主婦は輝いていないのか？パートに出なければならない理由は何か？女性社員のほとんどが出世し、管理職に就きたいと思っているのか？官邸・首相が口を揃えて云っている**多様な働き方**を具体的に提示しているか？……していない。



Pure/Thaiに咲くレモンの花

国民に向けた働き方改革の前に、行政官庁内改革及び意識改革の方が優先ではないか？与えられた仕事に手一杯の公務員は、庁内改革や意識改革などは至難の業だろう。バカな上司がよく口にする「仕事は与えられるものではなく、自ら創り出すものだ！」と云うのがある。そう云う上司に限って、仕事の創り方を教えてくれた人は居ない。何故か？仕事の創り方を指導する能力がないからだ。自ら出来もしない事を、部下に大言壮語を吐く上司をバカな上司と呼ぶ。『隗より始めよ』の言葉から、働き方改革は、官邸・行政官庁から始めよ！

厚労省を始、文科省・外務省ほか、不夜城省のような話は、枚挙に暇がないほど改革が必要ではないか？税金を残業代で消化しているのか？サービス残業だったらブラック官庁だ。こんな所から発信された方針などに誰が素直に従えるのか？餌にシippoを振るポチくらいだ。賢い国民は、どこ吹く風と聞き流し、黙々とマイペースを保つしかない。



ご存知！キヌメ

現政権は再デビュー当時、華々しく『日本を取り戻す！』とか云っていたが、日本の何を取り戻したいのか？取り戻さなければならないものは何か？取り戻すべきものは何か？先ずはその議論から始まるのかと思いきや、急ブレーキ(消費増税)と、急ハンドル(戦後レジーム追従への方向転換)を切って、国民を裏切った。

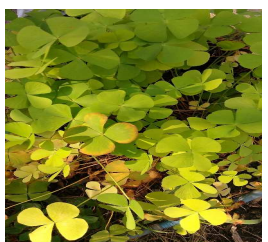
昨年の法改正・撤廃・導入法は、致命的な背信行為(カルロス・ゴーンの比ではない)でしかない。10月に控える消費増税も、凍結、若しくは先送りならまだしも、詭弁の最たる話法を使って実施する方向に動いている。これは、どういう事かと云えば、先に実施した5%~8%にした事を正当化する行為でしかない。



猛毒草 トリカブトの花

デフレ経済状態の中で、消費増税実施は、ド素人でも景気低迷を招き、国民の消費生活に直接打撃を与え、貧困化を加速させることが明白なのに、無能な取り巻き(悪質なポチたち)に騙されて、間違った決断を下した事実は認めながらも、「知ったこっちゃない！誤った決断を正当化するためには、更なる増税しかない」と知った国民は、それでも黙っているのだろうか？『消費増税分相当の外国資本に牛耳られている大企業の法人税減税が画策されてもいる。』株主資本主義化した大企業の外国人のための消費増税で、どうして日本が取り戻せるのか？

無力の国民がなす術を失った時 …！天は、天誅の鉄槌を下すだろう。それが日本の自然。



人生の Time Table

表題のテーマは、本誌の徒然において何度も取り上げて来た。人、一人の人生の時間は測り知れない。お迎えが近い人でも、今日があり明日がある。未だ逝くには早すぎる人が、突然何らかの理由で亡くなることもある。会社で働く人達も、貴重な人生の時間を仕事に割いてくれているという事を経営者は分かっている使っているのだろうか。

混沌とした世界情勢の中、人々は同じ時を過している。今という瞬間は、寒い冬の昼下がりかも知れないが、地球の裏側の南半球では熱帯夜だったりする。時差があるから、時間は同じではないが、今という瞬間は、誰彼差別無く等しく同時進行している。
今、この瞬間。幸せの絶頂にいる人がいるかと思えば、不幸のどん底にいる人がいる。個々の境遇こそが天国と地獄であって、あの世の話ではなく、現世にこそ天国と地獄は現存する。たった一人の小心な狂人のために、無辜の良民が囚われの身となって、信じていた神すらも助けてくれない、明日をも知れぬ日々を恐怖の中で同じ時を過している人もいる。

取り敢えず、そういう心配がないからと云って、日本は民主主義(主権在民)を標榜しつつ、勝手な解釈し放題の似非自由・国民を蔑ろにしてまで、外国人優遇と云う、奇異な不平等がまかり通っている。それでも、一見平和で豊かな国を装いながら同じ時(今)を過している。



天国と地獄を作っているのが小心な狂人であり、狂人に追従する姑息なポチたちであり、無機質な烏合の衆である大衆の結託だと気付かされるだろう。気付いたら、結託のままに生き永らえるか、結託からの脱却を試みるかの選択肢しかない。

人それぞれに、様々な人生を歩んでいる。良し悪しはさて置いても、一つだけ自問自答してみよう。『果たして、今の自分はあるべき姿の自分であるか?』殆どの答えは『否』ではないだろうか? こんな自分に誰がした! と叫んでも、人のせいにしても始まらない。自分自身、首根っこまで、どっぷり浸かってしまった結託の産物だからだ。すべからず、わが身可愛さが優先して、安易な道を選択してきた結果、本来あるべき姿の自画像とはかけ離れた自分が出来上がっている。
此处で云う『自分』を『国』・『日本』に置き換えたらもっと分かり易いだろう。馬淵睦夫氏は、沖縄講演でそのことを端的に指摘している。(是非ご覧下さい)

https://www.youtube.com/watch?v=7cE_4kQATvc 馬淵睦夫 沖縄公演 (2019年1月19日)

さはさりながら、気付いたからと云って、明日から結託の鎖を解くことは至難の業でしかない。しかし、鎖の解き方が無い訳ではない。少しずつでも、小さな事でも、『自分のために…』から、『人のために…』切り替えて行く事だ。自分の利益に優先して、人の利益を優先する事に切り替えて行く事でもある。偽善の真似事をする事ではなく、本当に喜ばれ、感謝される事を探し、見つけてみよう。(無料奉仕のボランティアに限定することなく)。良からぬ人の手助けをするなど論外だから、人のためと云うのは、意を同じくする人と共同(協働)作業をすることによって共存共栄(お互いに助け合い、励ましあい、収穫を分かち合うこと)を図ることにつながる。

すると、徐々に意を同じくする人が集まって来る。お客様でいえば、リピーター・得意先・ご最頂がこれに当る。結託が溶解し、結束(絆)が深まって来る。会社でいえば、社員の一人たりとも、株主や経営者に多額の利益を提供するために働いている人は居ないだろう。結果的にそうになっていたとしても、職場と給与が保証され、任せられた仕事に責任を持ち、同僚・先輩後輩・上司などの支援があるから、自分の貴重な人生の時間を職場に提供出来ているのだ。



老木と座禅草

Pure/Thaiは、開店当初よりこの方針で運営して来た。今年中に一旦閉店しても、この方針はKanang/Thaiの新規事業に引き継がれ、カナン(株)に関わる全ての人たちに利益(おカネだけではなく! 付加価値)をもたらす展開を目論んでいる。

極最近、ネットニュースで見つけた記事に『定年後のコミュニティ』というのがあった。

<http://ibpress.ismedia.jp/articles/-/55256>

定年後のコミュニティ

参考までにご覧下さい。60~75歳までを前期高齢者、75歳以上を後期高齢者と区分しているようだが、長寿社会の日本で充実した『老後の人生』を過すには何をしたら良いかの問題提起でもある。

世界中で、近隣諸国で、更には国内で混迷の度を増している今年、御世代わりも相まって、正に時代の転換期『追分』でもあると、身の引き締まる思いでいる人がすべきことは、『次世代の人のために、もう一頑張り』ではないだろうか?

人生のTime Table 残り時間の方が、今迄の時間より短いと実感するなら、今迄に蓄積して来た成功/失敗経験(これが本当の財産)を次世代に伝えていこう。

幕末の転換期『追分』に現れた偉人(山岡鉄舟)が、自らを評した言葉は鮮烈だ。
「死んだとて損得もなし馬鹿野郎」